

3つの危険

後部座席のあなたがシートベルトを着用していなかったら...交通事故に遭った時、あなたに襲いかかる

あの時、着用していれば...ではもう遅い!!

「自分だけは大丈夫」「事故に遭っても、そんなに大きなケガはしないはず」などと思っているアナタ?それは大きな間違いです!!



車外放出

あなたは車に乗るとき、シートベルトを着用していますか?

運転席や助手席に乗られる方は、もちろん「はい」とお答えでしょう。では、「後部座席でも着用していますか?」と聞かれたら、あなたはすぐに「はい」と答えられますか? 警察庁と(社)日本自動車連盟(JAF)が合同で行った調査により、一般道での後部座席シートベルトの着用率は8.8%で、高速道路でもわずか13.5%にすぎないことがわかりました。

「後部座席」のシートベルト着用状況



(平成10年10月/警察庁・JAF合同調査)

衝突実験の結果を見れば一目瞭然!! 車の中では、こんな惨劇が...



資料提供 JAF

① 自分自身が大きな被害

事故の衝撃により、想像以上の力で前席シート、天井、ドア等に叩きつけられ、自らが大きな被害を受けます。例えば、体重60kgの人が時速40kmで衝突すると、なんと約1.8tの重量が自分に加わることとなります。(JAFの実験データ)

② 車外放出の危険も

場合によっては、衝突の衝撃により車のガラスを突き破り、車外に放り出されてしまう可能性もあります。車外に放出されると、硬いアスファルトに身体を強打したり、後続車両に轢かれてしまう危険性もあります。

③ 前席同乗者への加害

衝突の衝撃で後部座席の乗員が前方に飛び出すことにより、前席乗員をシートとエアバックの間で押し潰し、圧死させる危険性があります。前席乗員の頭部の重傷確率も格段に高くなります。

シートベルトを着用することで、ここまで、被害が軽減されます。



(注) × グラフの数字は、平成18年中のデータ
× 致死率=死者数÷死者数×100
× 車外放出の数字は、車外放出死者数÷死者数×100
× 頭部重傷率は、(注)自動車事故対策機構の実験データ

上のグラフを見てわかるように、後部座席のシートベルトを着用するだけで、これだけ被害を防ぐことができるのです。

車に乗ったら、前も後も、まずシートベルト!!

それが、「命」を守る第一歩なのです。